

2014年度 政治学入門A 最終試験講評



今回の問題文は下記の通りでした。

マス・メディアの顕在的機能と潜在的機能について、具体的な例を挙げながら説明しなさい。なお説明に際しては、講義の内容を踏まえること。

1. 答案の作成方法について

最初に、どのような手順で答案を作成すべきだったかを見てゆきます。

①問題文を読み、出題者の意図を理解する。

問われている内容は一文目の前半に集約されています。つまり「マス・メディアの顕在的機能と潜在的機能について説明せよ」です。

ただし2点ほど、気をつけるべき点があります。ひとつめは「講義の内容を踏まえながら」説明しなければならないところです。一般論として、マス・メディアにどんな（顕在的・潜在的）機能があるかは、さまざまな説や見解がありうるわけですが、この試験で要求されているのは「講義でその点についてどのように説明されたか」です。したがって自分自身の認識や、他の教科書に書かれていたことを記しても構いませんが、少なくとも講義の中で言及されたことには、少しは触れなければなりません。

もうひとつは「具体的な例を挙げながら」説明しなければならない点です。したがって、抽象的な話に終始しては高得点は望めません。こちらについては、講義の中でいろいろと例を挙げて説明したはずですので、それをそのまま使っても、あるいは自分の頭で考えた例でもかまいません。

②必要と思われる論点を（紙に）書き出す。

これについては、講義レジュメの39ページを参照して下さい。これらの内容を順序立てて説明する必要がありますが、問題はいかに「取捨選択するか」でしょう。いろいろと細かいことを書き並べると、全体の構成が曖昧になりますので、瑣末と思われる論点は思い切って割愛するのが適当です（具体的には、後に掲げた「解答例」を見てみて下さい。

③答案全体の論理構成を組み立てる。

この点については、きちんと段落わけができていないか、全体としてまとまりのある構成となっているか、といった面からチェックしました。思い付くままにダラダラと書き並べたような答案は、当然ながら減点しています。

④実際に答案を書く。

（省略）

⑤きちんと読み直し、おかしい所がないかチェックする。

I. この作業をきちんとすれば、誤字や脱字などはかなり減るはずなのですが、誤字を理由に、減点した答案も少なくありませんでした。もったいない話です。

II. また、日本語として意味が通っていない答案も、複数枚見つかりました。これも一度、最初から読み直してみれば、すぐに気づくはずなのですが。

いずれにしても重要なのは、「問題文を見て、その場で思いついたことをダラダラと書き並べても、0点（これは比喩ではなく、本当に0点です）しかつけられない」ということです。あくまでも政治学入門Aという、特定の科目の学期末試験なので、講義の内容と懸け離れた「マス・メディアの機能について自分の思ったこと」を書いただけでは、合格点はほぼ間違いなく取れません。

2. 期末試験の採点について

①採点に際しては、最初に下記の諸点に留意しつつ、大まかなチェックを行いました。

I. 設問に対して、きちんと解答をしているか。

→前記「答案の作成方法」に記した通り、「講義の内容を踏まえて」「具体的な例を挙げながら」解答していないものは、そもそも採点の対象にはなりません。

II. 論旨の明快さや論理性が、大学生にふさわしい水準に達しているか。

→一読して「何が言いたいのか、よく意味の分らない」答案は、大きく減点しました。また、段落わけがきちんとなされず、ダラダラと改行もなく書き続けている答案も、減点の対象としました。心当りのある人は、「答案構成」をきちんと考えてから、答案を書き始めるようにして下さい。

III. 分量のバランスがとれているか。

→たとえば「顕在的機能」のうち「娯楽の提供」ばかりに紙幅を割き、それ以外についてはそれぞれ1行で終り、というのではいけません。つまりそれぞれの論点の分量が、バランスよく配分されていない答案についても、減点の対象となります。

②つぎに、以下のようなポイントをきちんと押えているか、チェックしました。

I. 必要な論点が揃っているか。

講義レジュメの39頁に挙げられている、顕在的機能(4点)と潜在的機能(3点)の総てがそろっているかどうか、が重要です。採点にあたっては「これらのうち1つ欠けるごとに10点減点」というのを、大まかな採点基準としました。

II. 解答の分量が不足していないか。反対に無駄な記述が含まれていないか。

試験時間は80分あるわけですから、それなりに分量が書かれていないと、全体としての評価はさがります。また反対に、出題と全く無関係の事柄がいろいろ書かれている場合も、やはり評価は下ります。「書いて置けば損にはなるまい」と考えたのかもしれませんが、結局「何が言いたいのか、よく意味の分らない」答案に近くなるだけです。全体としての印象は悪くなるだけです。「求められる知識を、論理的に、かつ過不足なく書く」ことを心掛けて下さい。

ちなみに書き終わっていない「未完結の答案」も、採点はしましたが、それなりに減点してあります。

III. 「基本的なミス」を犯していないか。

たとえば「顕在的機能」と「潜在的機能」の意味そのものが判っていない答案に、合格点をつけることはきわめて困難です。また、それぞれの機能の内容を根本的に誤解しているような答案も、基本的な知識に欠けていると判断して、大きく減点しました。

③最後に、誤字脱字など、形式的なミスについてチェックをし、あまりに酷いものについては減点しました。

こう書くと必ず、「読めればいいのではないですか」といいます学生が出てきますが、それでは同じように、誤字脱字だらけの履歴書やエントリーシートを、就職活動で提出したら、どういう結果になるかを考えてください。試験中は辞書を引けないので、ある程度までは大目に見ていますが、あまりに酷いものは、減点の対象としています。

またもうひとつ、今年の採点で気になったのですが、「レジュメ形式」や「箇条書きの答案」が、複数枚ありました。大学の試験で「論述式」の場合、基本的にレジュメ形式や箇条書きは認められません(一文ごとに必ず段落変え=改行しているものも含む)。これらは形式違反の答案として、大きく減点しています。そのような答案を書いた記憶のある人は、高校時代の「小論文」を想起して、あのような「論理的な段落わけと、内容的な起承転結のある」文章を書くようにして下さい。

④その後、加減点や裁量点なども合算して、最終的な成績を算出しました。答案がボロボロでも、加減点のおかげでS評価になった人がいる一方、答案そのものは素晴らしいのに、加減点によりCになってしまった人も

います。したがって、成績表にSがついていたとしても慢心せず、またCだったとしてもガッカリせず、今後よい答案が書けるよう、精進して下さい。

なお自分の答案について、より詳しいコメントや指導を希望するひとは、質問票を教務課に提出してもらえば、随時対応します。ただし成績の変更（確認）を要求するのであれば、かならず正式な「成績確認制度」の方を利用して下さい（直接連絡をもらっても、制度的に対応することができません）。

3. 成績分布について

- ①履修登録者全体（講義に一度も出席しなかった者も含む）における成績分布
（政治学入門Aのみの評価）

S : 7.4% A : 3.7% B : 2.9% C : 1.2% X : 48.4% F : 36.5%

（政治学入門全体での評価 = AとBの平均値）

S : 9.8% A : 2.9% B : 5.3% C : 5.7% X : 39.8% F : 36.5%

- ②最終試験受験者における成績分布

（政治学入門Aのみの評価）

S : 11.6% A : 5.8% B : 4.5% C : 1.9% X : 76.1%

（政治学入門全体での評価 = AとBの平均値）

S : 15.5% A : 4.5% B : 8.4% C : 9.0% X : 62.6%

〔解答例〕

1. マス・メディアの機能

マス・メディアには顕在的機能とよばれる、いわゆる「表向きの機能」と、潜在的機能と呼ばれる、いわゆる「裏の機能」がある。前者について分類を試みたのはラスウェル、後者について指摘したのはラザースフェルドとマートンであった（なお顕在的機能については、のちにライトが補足している）。

2. 顕在的機能

まず第1に挙げられるのは「環境の監視」である。この世界で日々生起している戦争や災害などの、さまざまな事件を人々に報せるべく、マス・メディアは監視している。その報告ともいべきものが、われわれが毎日目にしているテレビのニュースや新聞である。

第2に挙げるべきは「社会の構成部分の相互作用（関連づけ）」である。これは社会内部のコミュニケーションを図り、公共的な討論の場を提供して、社会の各部分の人々を互いに結びつける機能のことである。具体的には、たとえば原発の事故などの専門的知識が必要な事件が起きた場合、専門家の意見を人々に紹介することで、普段はつながりをもたない、社会のさまざまな部分の人々を相互に結びつけ、議論の場を提供することを意味している。

第3の機能は「社会的遺産の伝達（政治的社会化）」である。これは政治文化や伝統や社会的規範を次世代に伝達する機能のことであり、近い将来、社会の構成員となる子供たちに、自分たちが所属する社会で正しいとされる政治的な行動とはなにか（たとえば選挙に行くのが正しいのか、棄権するのが正しいのかなど）を伝達する機能である。

第4の機能は「娯楽の提供」であり、これはライトによって補足された。マス・メディアはその誌面や番組を通じて、読者や視聴者に娯楽を提供している。これも見逃すことのできない顕在的機能である。

3. 潜在的機能

第1の機能は「地位の付与」である。これは、個人や集団がどの程度の社会的地位や価値を有するかを決定する機能のことであり、たとえばある政治家について、彼（女）が将来の首相候補なのか、あるいは人気取りに奔走する取るに足らない人物なのか、といった価値判断を人々に提供している。

第2の機能は「社会的規範の強制」である。これは、人々に社会のルールを再認識させ、それに沿った行動を要求する機能のことであり、たとえば政治家の取賄事件などを厳しく批判することにより、ひとびとに「贈収賄は許されない行動である」といった認識を植え付けてゆく。

最後に指摘すべきは「麻酔的逆機能」である。これは断片的な情報を大量・無差別に提供することにより、人々の社会認識を混乱させ、組織的な社会行動を難しくする機能であり、原発事故や大規模な政治スキャンダルなどにおいて、よく発生する。あまりに多くの情報が提供されると、人々はむしろ麻酔にかかったように感覚を麻痺させてしまうため、マス・メディアの意図とは反対に、政治的無関心を発生させたりする。

以 上

※これはあくまでも「解答例」であり、この通りに書かねばならないわけではない。